

平成23年行政事業レビューシート

(総務省)

事業名	先進的ICT国際標準化推進事業	担当部局庁	情報通信国際戦略局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～平成26年度	担当課室	通信規格課	課長 布施田 英生			
会計区分	一般会計	施策名	V-1 情報通信技術の研究開発・標準化の推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第74号	関係する計画、通知等	日本再生のための戦略に向けて(平成23年8月新成長戦略実現会議) 新たな情報通信技術戦略(平成23年6月高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部) 第4期科学技術基本計画(平成23年7月総合科学技術会議) 知的財産推進計画2011(平成23年7月知的財産戦略本部)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国が技術力の面で他国と比べて優位性を有する先進的なICT分野における通信規格の国際標準化にあたり、単に原理を提案するだけでなく、システムやサービスと一体的に実証実験を行い、その実用性を十分に検証した上で、説得性の高い提案を行うことにより、国際標準の獲得を推進する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	情報通信審議会「情報通信分野における標準化政策の在り方」中間答申(平成23年7月)等において、当面推進すべき標準化重点分野とされている「スマートグリッド」、「デジタルサイネージ」、「次世代ブラウザ」等の先進的な各技術分野において、コアとなる通信規格を含めたシステムやサービス全体について実フィールドにおける実証実験を実施し、その成果を踏まえて戦略的に国際標準化を推進する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算					400
		補正予算					
		繰越し等					
		計					400
		執行額					
	執行率(%)						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(24年度)
	規格化・標準化数	成果実績	件数				
		達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	24年度活動見込
	標準化提案数	活動実績(当初見込み)	件数				
単位当たりコスト	(円/) ※現時点で想定されるコスト(積算ベース)		算出根拠				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	諸謝金		0.3				
	職員旅費		6				
	電気通信技術研究開発調査費		9				
	情報通信技術研究開発委託費		384				
計	0	400					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	/	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・用途・費目	/	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	事業開始前のため、未契約である。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	/	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	事業開始前のため、活動実績、成果実績はない。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	/	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	/	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>本施策の成果は、ICT分野の様々な新サービスの実現を通じて、広く国民の利益となることが見込まれるものであることから、国民のニーズがあり、優先度が高い事業と認められる。</p> <p>また、国際標準化の果たす役割がますます高まり、従来にも増して戦略的な取り組みが必要とされる中、標準化を目指す通信規格について、システムやサービスと一体的に実証実験を行うことにより、その実用性を十分に検証した上で説得性の高い国際標準提案を行うものであり、実効性の高い手段を用いている。本事業では、国際標準の獲得を推進することで、国際競争における我が国の優位性を確保することを目指しており、国が実施すべき事業と認められる。</p>		
<p style="text-align: center;">予算監視・効率化チームの所見</p> <p style="text-align: center;">事業所管部局による点検が十分行われている。</p>			
<p style="text-align: center;">上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>			
<p style="text-align: center;">補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</p>			

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					